

事故を風化させない

毎月8日を「安全の日」

安全講習会の動画

【神奈川】萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）は毎月8日を「安全の日」と定め、事故防止や安全について再確認する日としている。



2000年から「安全の日」にあわせ、本社から各営業所へ赴き、点呼に立ち会う。ドライバーに声をかけながら、会社からの粗品を手渡している。手渡す際に「安全の日」の必然性にコミュニケーションが生まれるため、いつもの点呼に新鮮さや緊張感が生まれ、安全について再確認する機会となる。

たのは2008年の事故から10年以上経ち、減少していた事故が再び増え、入社時期や世代によって事故の教訓が十分に伝わっていない懸念が浮上した。忘れてはならない事故を風化させないために「安全の日」の活動を行った。

2000年から「安全の日」にあわせ、本社から各営業所へ赴き、点呼に立ち会う。ドライバーに声をかけながら、会社からの粗品を手渡している。手渡す際に「安全の日」の必然性にコミュニケーションが生まれるため、いつもの点呼に新鮮さや緊張感が生まれ、安全について再確認する機会となる。

別に視聴する機会を設けるなど100%視聴を達成するため取り組んでいる。

さらに、上記の活動に加え、「AIDドライブレコーダー（AIDレコー）を人身事故は0件を達成した。取り組みを加えた。速している。次の一手として、これらの努力が実を結ぶように、事故件数は段階的に減少。車両数は、各営業所にほとんど変わらない。ディスプレイを設置し、21件あった事故は3件まで減少（物損の発生は引き続き方針）。」（田川伸也）

8日は同社からドライバーに向けて忘れられない日だ。2006年の7月8日、同社が人身死亡事故を起こして「安全の日」の活動を始めた。

事故の内容や得た教訓、東海林社長からドライバーに向けたメッセージを一枚一枚のドライバーのスマートフォンに送り、確認してもらい、飲食も含まれる。事故防止が目的